

学校名 (児童数)	多賀町立大滝小学校 (77人)
--------------	-----------------

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：犬上郡多賀町川相568  
 電話番号：0749-49-0313

**【研究の目的， 研究内容】**

**(1) 研究主題**

一人ひとりが主体的に取り組み、自信をもって表現できる子どもの育成  
 ～確かな学力と伝え合う力の向上を通して～

**(2) 研究主題設定の理由**

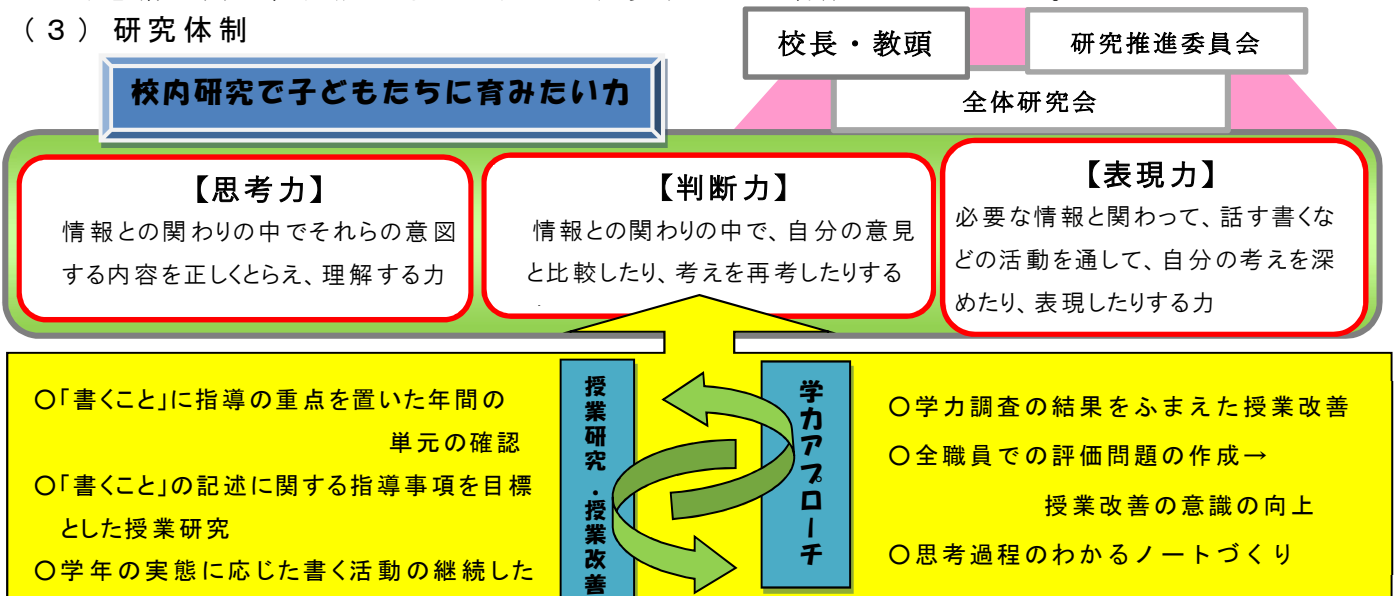
本校では、「豊かな心を育み、自ら学び、たくましく生きる子どもの育成」を教育目標に掲げ、その具体化に努めている。大滝小は小規模校であり、子どもたちの人間関係が固定化し、既存の相互関係をさらに高めたり、幅広い人間関係を築いたりする意欲や力が乏しく、新たな社会や環境で対応する能力が十分でない課題をもつ。

本校は昨年までの6年間、「音声言語活動と書く活動を通して自分の思いを表現し、伝え合うことのできる子どもの育成」と「話し合いの場を通して、社会の中で生きて働くコミュニケーションの力の育成」を研究主題として、国語科の授業実践を中心に各教科に渡って取り組んできた。昨年度から県の学力アプローチ事業の指定を受け、特に書く活動を中心に据えた研究の取組をスタートした。少しずつではあるが、自分の思いを豊かに表現するための語彙の習得や文章の組み立てや表現方法について学習することで書くことへの抵抗感が少なくなったという実態はある。しかし、特に高学年についてはさらに語彙力を高め、与えられた課題に対して要点をふまえながら自分の思いを伝える力が必要である。

このような本校の実情と実態から、今年度は書く力の定着を目指した取組と共に「確かな学力」と「伝え合う力」の向上を目指してきた。学力向上については、個々の学習のみとりを丁寧に行い、個々に応じた指導を充実させるよう努めてきた。さらに、本校独自で実施する大滝タイムや行事で取り組む音読集会、百人一首の暗唱、漢字検定など充実させることで、児童の意欲面の支援を行ってきた。


子どもたちひとり一人が主体性をもって判断・行動をし、様々な活動を通して自尊感情を高め、自信をもって自己を表現する力を育成していきたい。

**(3) 研究体制**



- ・ 4月23日（木）学力調査検討会①  
全国学力・学習状況調査の自校採点及び模範解答作成
- ・ 5月 7日（水）校内研・学力アプローチの概要確認と研究単元の決定
- ・ 6月 4日（火）評価問題校内作成検討会
- ・ 6月25日（水）第1回授業研究会  
わかあゆ 国語科「ようこそわたしたちの町へ」
- ・ 7月 9日（水）第2回授業研究会  
4年 国語科「新聞を作ろう」
- ・ 7月29日（月）夏季校内研修  
1学期のふり返りと2学期の授業研究、授業改善の検討
- ・ 9月 3日（水）学力調査検討会②  
国語科・算数科における実態の把握と2学期の具体的方策
- ・ 9月24日（水）学力調査検討会③
- ・ 10月 8日（水）第3回授業研究会  
3年 国語科「食べ物のひみつを教えます」
- ・ 10月16日（日）1, 2年生生活科発表会 第4回授業研究  
1年 生活科「虫となかよし」  
2年 生活科「見たい、行きたい、知りたい犬上川」
- ・ 10月23日（木）学力アプローチ事業に係る校内研究
- ・ 11月 7日（金）学力アプローチ指定授業・第5回授業研究  
6年 国語科「意見文を書こう」
- ・ 1月21日（水）第6回授業研究会 5年 国語科（予定）

（5）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等（一部分を掲載）

取組とねらい	方法と成果
<p><b>校内研究全体を通して</b></p> <p><b>確かな学力と伝え合う力を育てる授業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 思考力や判断力を育む授業改善と学習意欲の向上</li> <li>・ 学校教育活動全体を通して行う表現活動の重視</li> </ul>	<p>◆各教科における確かな学力の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元や授業ごとに「1時間のねらい（課題）」を確実につかませ、自分の言葉で「まとめ」を書いたり、発表したりする。</li> <li>・ 活用力を支える基礎的な学力の徹底 (算数チャレンジファイル、漢字・音読・視写・辞書活動・読書活動)</li> </ul> <p>◆様々な時と場に応じた表現活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 音読集会、百人一首暗唱、委員会活動、行事など</li> </ul> <p>◆「書く力」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語科における学年ごとの書く力を重視した授業改善</li> <li>・ 「書く力」の育成を目指した日々の継続した取組</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>各学年の実態に合わせた「書く活動」の取組を継続させることで「書き上げる」「書いて伝える」という達成感をもたせることができた。達成感は個々の自信につながり、書くことに対する意欲を高めることにつながった。成果を得るためには取組の継続と徹底が重要である。</p> </div> 

取組とねらい	方法と成果
<p>具体的な取組 その1</p> <p>全校一斉の取組 【大滝タイム 視写タイム 読書タイムなど】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>継続的な取組によって身につく力</li> <li>学校全体で取り組むことによる成果</li> <li>意欲を高めるための指導の工夫</li> </ul>	<p>◆メガジャキ音読（大滝タイム前半5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>キーワードは声の張り、リズム、一斉。 チャイムと同時に全校スタート。</li> <li>古典、漢詩、現代詩、物語などを中心に行う。</li> <li>音読用のテキストを全校購入。（学年に合った資料）</li> <li>年2回の音読集会で日頃の練習の成果を発表する。 (6月、11月に開催、11月は、学習参観)</li> </ul> <p>◆視写タイム（大滝タイム後半5分）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学年ごとに教材の視写ノートを購入。 鉛筆の持ち方、姿勢、速さなどを意識しながら、視写を行う。</li> <li>今年度、6年生は3学期から新聞の視写を行う。</li> </ul> <p>◆読書タイム（掃除終了後10分間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読み聞かせなども活動に入れながら、毎日の10分の読書タイムを確保</li> <li>学年別に読書タイムの図書館使用を認め、校内の貸し出し数を増やす。</li> </ul> <p>◆百人一首の全首暗唱～全校達成を目指して～</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>12月より百人一首のプリントを全校配布し、暗唱をスタートする。児童会で「全首暗唱」を呼びかけ、学校全体の取組として行う。</li> <li>校内放送や掲示物などを活用し、児童の意欲を高める。 2月中旬に百人一首大会を計画している。</li> </ul>    

取組とねらい	方法と成果
<p data-bbox="177 465 373 544">具体的な取組 その2</p> <p data-bbox="177 595 373 712">確かな学力の 定着 【算数科】</p> <ul data-bbox="159 853 392 1137" style="list-style-type: none"> <li>・少人数ならではの良さを生かした指導の工夫</li> <li>・個に応じたきめ細やかな指導による弱点の克服</li> </ul>	<p data-bbox="432 203 1150 237">◆大滝っ子算数チャレンジファイルの作成と活用</p> <ul data-bbox="472 244 1059 999" style="list-style-type: none"> <li>・既習内容の理解の徹底と個々の弱点把握を目指して個々のファイルを作成。</li> <li>・プリントは一度だけ行うのではなく、特に理解が十分でなかった単元を担当が個々に把握し、用意されている同単元の復習プリントに繰り返し取り組めるようになっている。</li> <li>・高学年は、3年生以上の学習内容をすべて閉じたファイルを作成し、苦手意識のある単元や理解が不十分な単元の定着に努める。</li> <li>・これまで4月末に行っていた学力テストを今年度より、1月の下旬に実施することにした。現在このテストに向けて、特に冬休み前から1月を強化期間とし、それぞれの学年の教科毎に設定された目標値を上回ることを目指している。</li> <li>・6年生については、3学期の算数科の学習がこれまでの総復習であり、中学校に向けて苦手な単元をすべてマスターすることを目指している。そのため、各単元の自己チェックを丁寧に行い、繰り返して学習することで理解が高まる学習活動や学習過程を実感することを大切にしている。</li> </ul> <div data-bbox="1082 248 1442 517" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="443 1010 1437 1234" data-label="Text" style="background-color: #f0f0f0; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>苦手な単元が教師と児童の間で共通理解できるため、指導をスムーズに進めることができた。また単元ごとに適量の問題量のプリントが用意されているため、児童が苦手なプリントでも最後まで意欲をもって取り組むことができた。同じ問題でも繰り返し行うことによって、解き方や書き方を児童に定着させることができた。</p> </div>
<p data-bbox="177 1249 373 1283">取組とねらい</p> <p data-bbox="177 1514 373 1592">具体的な取組 その3</p> <p data-bbox="177 1682 373 1760">学年の取組 【6年国語科】</p>	<p data-bbox="855 1249 1019 1283">方法と成果</p> <p data-bbox="432 1294 943 1328">◆ニューズペーパーひと言日記の取組</p> <ul data-bbox="456 1335 1445 1839" style="list-style-type: none"> <li>・毎日の家庭学習に組み込んだ新聞の切り抜きをノートに貼り、要約とコメントをノート半分に書き込む。 ☆記事を探す（読む）→まとめる→自分の考えを書く</li> <li>・新聞に掲載されている意見文を読み、自分の意見を書く。 毎日の朝学習ミニプリント（算数）の裏面に印刷。算数のプリントをした後で、取り組む。</li> <li>・視写ノートから新聞コラムの視写へ 全校一斉の視写ノートが2学期半ばで終了したため、同じ時間に実施。 1コラムを1週間で写し終わり、気になる言葉を調べたり、自分の意見を書いたりしてまとめる。3学期より専用ノートを活用し、実施。</li> </ul> <div data-bbox="1106 1301 1426 1541" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="443 1850 1437 2063" data-label="Text" style="background-color: #f0f0f0; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>日常生活の中で多くの活字に触れる環境を作ることは、子どもたちの意識を変化させた。テストで写す解答や日頃の感想などの作文などでは、既習の漢字の活用量が増え、これまでの間違いが減ってきた。また、町内で実施している漢字検定の合格者が増えたり、平均点が上がったなどの成果も見られた。</p> </div>

## 【研究成果と課題】

### (1) 研究成果

#### 教師の意識改革・授業改善

今年度は、「書くこと」にこだわって国語科の学習を進めてきた。「書くこと」は他教科においても個の思いの表現や学習の足跡を残す上でも中心的な活動となる。そのため、各学年に応じた「書く」活動を取り入れ、児童の実態を交流する機会も多くなり、教師間の意識の高まりが見られた。児童に良いと思うことは学年の垣根をこえて、児童の実態に応じた形で実践しさらによりよい方策を見つけ出したり、交流したりすることができた。

本年度は、どの学年でも「書くこと」の力を付けるために授業研究・授業改善を行ってきたが、学力アプローチ事業において研修会をもって県からご指導を受ける機会を得ることができ、授業改善にもつなげることができた。



#### 継続する取組から生まれる力

現在の6年生は、昨年度より学力アプローチ事業の指定学年として授業改善及び、教育活動全体において、事業を進めてきた。6年生での学力調査では、読み取りや語彙の不足などの弱点が明らかにかがえ、無回答も少なくなかった。ただ、学習意欲が低いわけではなく、何事に真面目に取り組めるため、授業改善や指導の工夫を試みるには十分だった。

レポートにも報告させていただいたが、2学期の研究授業に向けて特に本腰を入れて取り組んできた「書くこと」の指導の工夫の中で一番成果として上がった指導は、「できるだけ多くの言葉と出会わせること」だった。特に生活の中でも少人数の中で生活している本校の児童の知っている語彙の数は非常に少なかったため、いくつかの指導をする中で目に見えて理解できる語彙の量が増えた。また新たな言葉との出会いが「読むこと」だけでなく、「書くこと」の中での出会いが多かったことで、作業とあわせて得ることができ、定着が高まったと言える。

また毎日の宿題として音読を続けてきたように、毎日の書く活動を宿題や朝学習など継続される学習活動として取り入れることは有効であったと言える。特に「文章を黙読で理解すること」「読んだものについて自分の考えを書くこと」は児童らにとってはかなり困難なことであったが継続することで訓練された部分が非常に大きかった。困難なことほど時間をかけて取り組むということを再認識した。

### (2) 課題等

本年度は特に6年生で「書くこと」についての継続的な取組を実施した。ただ6年という学年の実態だからこそ続けたり、個々に取り組めたりした部分があり、全学年まで広げていくには十分でなかった。

「書くこと」は1年生からの積み重ねの中で培われる力である。そのため、2年間で得た研究成果を踏まえ、来年度は「書くこと」について、「全学年で系統立てる」、そして「年間を通じて継続できる」活動を検討し、実施していく中でさらにその成果と課題を見取っていく必要がある。